

教 育 研 究 業 績 書

令和 4 年 3 月 31 日

氏名 中丸 陽子 印

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
公衆衛生看護学・在宅看護論	地域看護・訪問看護・母子保健・精神保健	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 臨地実習での指導	2016年9月～ 現在	「公衆衛生看護学実践実習Ⅰ」「在宅看護論実践実習Ⅰ」「在宅看護論実践実習Ⅱ」「総合実習」において実施した。特色ある施設の設立目的、職員の専門性、地域性、対象者の特性、提供されているサービス、制度を支える法律など、座学では理解しにくい複雑な情報について、学生の理解度に合わせて解説し知識習得方法を指導した。また、学生間の学びの共有や、チーム体制の構築に向けサポートした。
保健師実習 地域診断指導	2016年5月～ 現在	「公衆衛生看護学実践実習Ⅱ」において、実施した。膨大な既存資料のピックアップと比較分析、効果的な図表作成をサポートした。地区診断の目的と保健師の専門性を繋げる理解に努めた。
保健師実習 臨地実習指導	2016年5月～ 現在	「公衆衛生看護学実践実習Ⅱ」において、実施した。学生が地域を知り、地区診断で抽出した健康課題の実際を理解できるよう、主体的な行動をサポートした。健診や訪問で出会った個々の事例をアセスメントに用い、次に家族関係や地域社会の特性へ視点を広げるよう助言した。制度の成り立ちや実際の活用状況を、学生の実体験から認識させた。実習チーム内の相互協力が進むよう、機会を作った。また、学生の理解度は様々であるので、個別に目標設定し達成度を評価していった。
学内での実習指導	2020年 1月～3月	コロナ禍により「在宅看護論実践実習Ⅰ」を学内にて実施。他教員方と検討を積み重ね、訪問看護ステーションでの模擬体験を意識した演習計画を作成・実施した。事例を複数作成した。施設概要と対象者の特徴、訪問看護ステーションを支える制度について講義を行った。
保健指導論 演習	2021年6月～	母子保健での家庭訪問事例と記録様式を作成し、演習を実施した。
健康教育論 演習	2021年11月	健康教育事例を作成し演習を実施した。
公衆衛生看護活動展開論 集中講義	2021年8月	健康レベル別の保健活動（障害、精神、難病）の講義を実施した。
災害看護論Ⅱ 集中講義 演習	2021年12月	被災者の事例を作成し、被災者支援に対する演習を実施した。
2 作成した教科書，教材 社会保障制度・社会福祉制度（介護保	2017年5月～	複雑な制度の概要を個別のケースにあわせ図式化して作成

<p>険法、障害者総合支援法、年金制度を中心に)等の体系図と解説</p> <p>地域における精神保健福祉活動</p> <p>訪問看護ステーション利用者情報事例</p>	<p>2020年5月</p> <p>2020年11月</p>	<p>オンライン実習のためppt作成 既存の資料から法整備の歴史、最近の傾向と今後の方向性を文献やニュースから示した</p> <p>学内実習に必要な事例を複数作成。1例ごとに基本情報、訪問看護指示書、居宅サービス計画書を考案</p>
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他 香芝市社会福祉事業功労賞	2021年11月	香芝市障害支援区分判定等審査会委員として尽力したことを評価され受賞した。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
<p>1 資格, 免許</p> <p>1) 看護師免許</p> <p>2) 保健師免許</p> <p>3) 大阪府知事指定介護支援専門員実務研修終了 同更新研修終了</p>	<p>1988年4月</p> <p>1989年4月</p> <p>1999年9月</p> <p>2018年9月</p>	
2 特許等		
<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1) 地方自治体(交野市)の保健師としての活動</p> <p>2) 香芝市障害程度区分判定等審査会</p> <p>3) 香芝市介護認定審査会</p>	<p>1986年5月～1999年5月</p> <p>2006年4月～現在</p> <p>2007年4月～現在</p>	<p>地区担当制により地域に住まうすべての健康レベルの人々を対象に地区組織活動を実践した。</p> <p>障害者自立支援法、障害者総合支援法に沿い委員として活動 事例理解や支援体制の検討・提言も行っている</p> <p>介護保険法により委員として活動</p> <p>地方自治体における情報システムの標準化等にむけた協力</p>
<p>4 その他</p> <p>1) 子ども文庫(にこにこ文庫)実行委員</p> <p>2) 堺市南区庭代台A地区要援護者リスト作成</p> <p>3) みいけ食堂実行委員</p>	<p>2005年4月～2012年3月</p> <p>2010年</p> <p>2016年～現在</p>	<p>地域の子どもが小学校区内で自由に来所し本を読み過ごすことができる居場所づくりに参加。子どもが自主的に企画運営できる子ども祭り等行事も多く開催した。子育て中の母と子どもの育ちをサポートした。</p> <p>災害多発をうけ地域の要援護者から不安の声が上がる。避難に際し誘導と避難行動の援助を求める意見が高まる。自治会レベルで調査を行い手探りで要援護者リストを作成した。</p> <p>誰もが集える居場所づくりをめざし、中学校区内に多世代食堂を開設した。実行委員として企画運営に参加している。</p>

3) 重度心身障害児に対するコミュニケーションツールの開発	2017年	支援学校に通学する、他者との言語的コミュニケーションが困難な児童を対象とした、意志表出を可能とするアプリケーション開発に向けた、アセスメントと実際の工夫を行った。		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
<p>(学術論文)</p> <p>1. 交野市における健康教育のとりくみ「いきいきヘルシー教室の実践報告」</p> <p>2. 表情の画像解析と生理計測による緊張ストレス状態の推定評価</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>1996年10月</p> <p>2017年12月</p>	<p>第55回日本公衆衛生学会総会 大阪</p> <p>平成29年度 日本人間工学会関西支部大会</p>	<p>知識の習得・食事療法・運動療法を主とした半年間の健康教育により、体脂肪の減少など体組成の改善がみられた。その健康行動に対するモチベーションを保つため、個人と集団に働きかけた支援を分析し、報告している。</p> <p>ヒューマンエラー防止を目標に、ストレスレベル推定評価の手法の確立を試みた。心拍変動と表情要素(両眼と口の輪郭)の画像解析の相関を解析した。緊張ストレス状態の変化と表情要素の定量的な変化が認められた。</p>
<p>(その他)</p> <p>1. 平成7年度健康教育普及推進事業「いきいきヘルシー教室」報告書</p>	<p>共著</p>	<p>1996年3月</p>	<p>大阪府国保連合会 大阪府立成人病センター編集協力</p>	<p>知識の習得・食事療法・運動療法を主とした健康教育を実施した。血液検査データ、体脂肪など体組成の改善と心理的なストレスの解消があった。6か月にわたる健康行動を継続するモチベーションを保つための必要な支援、行政と主体者である市民の役割とは何か、分析報告している。</p>